

題材名『おうちのひとへプレゼントするおかしをつくろう』

(6時間)

〔題材について〕 ※PR文「いつもお世話になっているお家の人におかしをプレゼントして元気になってもらおう」

- 児童にとって具体的なイメージがしやすく、表現を工夫する姿勢を高められる。
- 相手意識を持ち、思いを込めて取り組みやすい。

〔本時のめあて〕 ◎ (図画工作) 紙粘土と絵の具を使い、形や色を工夫して、おかしをつくろう。(技能)

◎ (人間形成) お家の人へ感謝の気持ちをこめて、ていねいにおかしをつくろう。

(関心・意欲)

本時の展開 (2・3/6時間目)

学 習 活 動	教 師 の 支 援 (☆個別支援アイテム)
1 前時に作ったおかしレシピや教師の試作を見て、意欲を高める。	○事前に、試作品を作り、紙粘土の感触や、色の作り方を確認しておく。児童に、試作品にこめた思いを紹介する。
2 学習のめあてを確認する。 ・本時の学習の手順を聞き、見通しをもつ。 ・活動の準備をする。	○お手ふきは濡らして机の上に置かせる。 ○グループでゆずりあって、仲良く絵の具を使う。 ○絵の具は、少しずつ紙粘土に混ぜてこねる。
3 おかしを作る。	○こねることで、粘土の粘着がよくなることを知らせる。 ☆おかしの例がのった本や写真などを見せる。
4 本時の学習のふり返りと、次時の予告をし、学習の見通しを持つ。	○容器に盛りつけ、友達と鑑賞会をした後、お家の人にプレゼントするという学習の流れを知らせる。
〔成果と課題〕・・・ヒット題材にするためには？	
○ 食べ物の中でも、児童が好きなおかしを題材にしたことと、対象を家の人にしたことで、高い意欲で取り組めた。	
○ のびる粘土を用いたことで、紙粘土の感触を楽しみながらできた。	
● 普段の経験の差が出やすい題材であった。	

写真・資料

